

◆白選十五句より

橋本久美

雪折の樟の大枝香りけり
言問を渡るマフラー紅見せて
寒晴や石屋の石に人映り
紅梅の右の木見れば右の濃く
老いてなほ一人の師あり水温む
子と唄ひ女雛の唇の開くかに
祖父の身となりて眩しき初桜
うららかや離宮へ船出知らす声
春宵や酒汲むほどにみな若く
広縁に座せばささやき春障子